



すがなみ・しげる 福山市(旧神辺町)出身。1972年岡山大医学部卒。77年同大大学院医学研究科(公衆衛生)修了。岡山大病院勤務など経て84年、AMD Aを設立した。

命があればどこへでも」をスローガンに、約30カ国に医師や看護師らを派遣した。菅波茂代表(65)に活動成果や今後の目標など聞いた。(船越元洋)

震災、洪水 30カ国派遣

—世界各地の被災地で幅広い支援活動を展開した。

「3月11日の発生直後に先

「トルコ、ミャンマーの大震災、タイの洪水などかつてない規模の被害が出た。治療や心のケアなど、それぞれの被災地で求められる支援は違っていたが、AMD Aには30年近い活動実績がある。現地

の協力者と力を合わせ、通信と医療物資などを安定的に確保し、支援を行ってきた。タイでは住民が皮膚病に苦しんでいるという情報をつかみ、船を買って洪水の中を診療して回った。活動先の各地で感謝され、医療事故もなく大きな成果を挙げることができた」

「阪神大震災から16年が経過し、日本人のボランティア

「これからの、どのような支援が求められるか。」

「3月11日の発生直後に先発隊を派遣し、同13日には私も現地入りした。特に津波被害の大きかった岩手県釜石市、大槌町では避難所の巡回診療に力を入れた。高齢者や子どもの体力低下など現地では時間とともに状況が悪化しており、調整員がフル回転してニーズを分析。岡山から医薬品など必要な物資を陸路で20時間かけて運び込んだ。これまでに医師や看護師ら延べ251人を派遣している」

「これからの、どのような支援が求められるか。」

「阪神大震災から16年が経過し、日本人のボランティア

「これからの、どのような支援が求められるか。」

「これからの、どのような支援が求められるか。」

「これからの、どのような支援が求められるか。」

に対する理解も進んだ。岡山県民の関心も高く、企業や市民などから次々と協力の申し出があり、活動物資の不足もなかった。今後は医療体制や設備が復旧するまで息の長い支援が必要。高齢者の健康維持と交流の場となる健康サポートセンターを岩手県に設けて医師らを常駐させているほか、今後3年間は人手の不足する病院に医師を派遣する計画だ。岡山県内からボ

ランティア希望者を募り、現地に送ることも考えている」

—今後の活動目標は。

「国内外での医療ボランティアはもろろん継続する。ほかに世界各地で難民の支援なども行っているが、活動を一歩進めたい。

これまでの活動実績を生かせば、紛争の調停にも尽力できると思う。かつて内戦があったスリランカでは、敵対した地域の子どもたちを集めてサッカー大会を開き、互いの地域の結び付きを強めることができた。世界に悲劇が起きないよう力を尽くしたい」

難民支援拡充へ

東日本大震災をはじめ、タイの洪水など世界各地で大規模な災害が相次いだ2011年。国際医療ボランティア・AMD A (岡山市北区伊福町)は「救える